

平成十三年度

## 別府史談会

# 市外探訪記

平成十三年十一月十八日（日）、晴天のもと別府史談会では市外探訪（国東町）が行われ、当日三十八名が参加しました。

午前八時三十分に新港町の花時計から大型バスで出発する。途中、バスの中で小玉洋美別府史談会理事から「国東半島、六郷山寺院」についての説明を受ける。

### 一 臨濟宗（妙心寺派）太陽山安国寺

（東国東郡国東町大字安国寺）

最初に「安国寺」に参詣し、当山の和尚さんから説明を受ける。

当山は応永元年（一三九四）に足利尊氏公を開基とし、絶海国師が創建された寺である。

本寺は、釈迦牟尼仏・文殊菩薩・普賢菩薩の三仏を本

尊とし、観世音菩薩・延命地藏菩薩等を安置している。その他、足利尊氏公の木像、延命地藏木像など多数の文化財を有する。

山門は天明四年（一七八四）に再建、高さ三十三尺（約十メートル）、茅葺きの鐘楼門である。

山門の両脇には石造の仁王像が安置されている。

現在の本堂、庫裏、鐘楼、地藏堂は、いずれも昭和になって檀家の寄進により新築された。

足利尊氏公木像や大石良雄妾室お軽の像等は、京都山科の地藏寺にあったものを当安国寺に移したものである。

（別項参照）

### 二 弥生のムラ 安国寺集落遺跡公園と国東町歴史体験

学習館（国東町大字安国寺）

国東町の田深川南側、下流域右岸にある「弥生のムラ

安国寺集落遺跡（国指定）公園」と「国東町歴史体験学習館」では金田信子館長から、二階講話室および映像ホールでのスライドによる説明と一階にある館内展示室の案内を受けた。

弥生の世界（今からおよそ一八〇〇年前）の高床式建

物の必要性や当時の作り方を知ることが出来た。

当日、別府大学の学生達が当館で体験学習を行っていた。  
見学後、当館で昼食をとる。

### 三 峨嵋山文殊仙寺（国東町大字大恩寺）

雄度牟礼城跡と文殊山（標高六一四メートル）の谷あい「峨嵋山・文殊仙寺」（天台宗、県史跡）がある。  
急傾斜の石段を三百段ほど登る。

当山の和尚さんから説明を受ける。奥の院本殿は、大化四年（六四八）の開基という伝承があり、天文七年（一五三八）の建築という。岩中から霊泉が湧き、「文殊の知恵の水」として有名である。

本尊の文殊師利菩薩は金仏で、十五年ごとに開帳される秘仏である。庫裏の東端に高さ九メートルの巨大な宝篋印塔（一八三三〔天保四〕年から八年間かけて完成）が座っている。

寺には「応永四（一三九七）年」銘の梵鐘、「康正二（一四五六）年」銘の銅鑿口（ともに県文化財）等がある。

### 四 六郷山末山本寺、石立山岩戸寺

（国東町大字岩戸寺寺迫）

最初に現地入り口付近で、小玉洋美理事から当山「修正鬼会」についての説明が行われる。

岩戸寺（天台宗県史跡）は、バス停から三百メートルほど坂を上ると石造仁王像（県文化財文明十年〔一四七八〕の造立）が二体、参道入り口に立っている。この仁王像は大分県で最古といわれる。

当山では奥さんから説明を受ける。本堂左手から六所権現への不ぞろいな石段を百メートルほど上ると、右側の巨石の上に優美な国東塔（国指定重文高さ三・二九メートル）が立っている。「弘安六（二二八三）年」の銘は本県最古（約七百年前）のものである。その前には高さ二メートル五四センチの六地藏石幢（せきどう、県文化財、一四七八年造立）がある。

本尊薬師如来（県指定有形文化財）は約千百年前、藤原中期のものと推定される優秀作で、像高は九五・四センチあり、脇立に日光・月光菩薩と鎌倉時代の薬師十二神将とが安置されている。

五 奈多八幡宮（杵築市字奈多）

最後に杵築市の奈多八幡宮（祭神比売大神・応神天皇・神功皇后）を参拝、見学する。当宮の宮司さんから説明を受ける。七二九（天平元）年、宇佐公基が創立したと伝えられているが、一五九六（慶長元）年の大津波で社殿・古記録を流失し、細川忠興によって社殿再興が始められ、一六二七（寛永四）年に完成した。

神社には木造僧形八幡神座像と木造女神座像二体（いずれも国重文）が保存されている。三体とも一木彫りの簡素な像で、藤原後期の作である。この神像は七六五（天平神護元）年以来、四年ごとの宇佐行幸会に際して宇佐八幡宮（宇佐神宮）から移された旧御神体の一つといわれる。行幸会は一六一六（元和二）年を最後に廃絶した。

社室には宇佐八幡託宣集・舞楽陳道面・八幡奈多宮縁起・木造神像六体・大太刀（いずれも県文化財）などが祀られている。

見学を終え、一行は十八時頃、別府へ帰着した。

（編集部）



▲杵築市奈多八幡宮にて